

# 日本語教室部会の華道教室が開かれました

佐々木千恵子(日本語教室部会)

習志野市国際交流協会日本語教室あすなろ会主催の華道教室が5月30日と6月1日に開かれました。

前回までは12月に開かれていたため冬の花材でしたが、今回の花材は、夏のお花の代表格のひまわり、カンガルーポー、モンステラ、ゴールドスティック、ソリダスターの5種類です。

講師の木下弘子さんが「水盤の幅と高さを足して1.5倍した一番長い枝を真といいます。その4分の3の長さを副、その4分の3の長さを控とします」との、「生け花の基本」を説明。参加した日本語ボランティアと学習者の皆さんはそれを真剣に聞いていました。カンガルーポーを「基本」の長さに3本切って、剣山に生けたあとは、思い思いにひまわり、ゴールドスティック、モンステラ、最後に剣山を隠すようにソリダスターを生けていきました。

花材がすべて外国のものだったので、「和のテイストをうまく出せるかな。葉の少ない直立した花材が多く、茎の太さに比べ花が大きい

く重たくて扱いが難しいかな」と、ちょっと心配しました。「ひまわりが重たくて倒れそう。角度を変えれば大丈夫!」、「ソリダスターが細すぎて剣山に刺さらない。束ねればいいのね」などと工夫しながら和気あいあいの雰囲気の中、出来上がった自分の作品に「うわー、きれい!」の言葉があちらこちらからあがりました。「生け花は初めてなので、できるか不安」といっていた男性。「帰ったら一緒に生けようね」と子どもに話していた学習者などいました。口々に「家に帰ってすぐいけます!」といいながら、包んだお花を大事そうに抱えて見せた参加者の笑顔がとても素敵でした。

木下さんの「家に帰ってから、水盤がなければお皿を、剣山がなければオアシス(吸水スポンジのようなもの)など、身近なものを代用してあまりこだわることなく、毎日の生活のなかに伝統文化の生け花を気軽に楽しんでいってもらえたら嬉しいです」という最後の言葉が印象的でした。



講師木下さんの指導を見つめる参加者のみなさん



ひまわりの花で教室が明るくなりました